

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>教育目標 「夢をもち 心豊かに たくましく生きる 子どもを育てる」</p> <p>児童像 ・自ら学ぶ子 ・思いやりのある子 ・行動するたくましい子</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 確かな学力の定着・向上 2. 心をはくむ活動の充実 3. たくまい心と体の育成 4. 個に応じた特別支援の充実 5. 安全教育と安心のある環境づくり
---	---

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【全国】 国語の基礎問題では、「漢字の読み、書き」「故事成語」の正答率が全国平均と近い数値になっている。 算数の基礎問題では、「四則計算」「円周、直方体の体積」「式の表す意味」「π」などを用いた式、の正答率が全国平均と近い数値になっている。 国語の基礎問題では、特に「情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する」と「物語の登場人物の相互関係を捉える」の正答率が低い。 算数の基礎問題では、特に「乗法の意味」「分数の大きさ」「平行四辺形の作図」についての正答率が低い。 国語の活用問題では、特に「目的や意図に応じて、計画的に討論する」「二つの詩を比べて読み、内容や表現の工夫を捉えようとものに、それらについて自分の考えを書く」の正答率が低い。 算数の活用問題では、特に「計算法則の解釈と説明」「事象の数学的な解釈と表現」「事象の観察と論理的な考察」の正答率が低い。</p> <p>【県】 すべての教科で、県平均を上回る数値になっている。特に国語、数学は基礎・活用共に県平均を大きく上回っている。</p> <p>(国語) 文章に書かれている内容を理解した上で、自分の考えを記述する問題の正答率が高い。(本校67.7% 県63.5%) 文の意味のつながりを考えて一文を二文に分けて書く問題に課題がある。(本校24.2% 県37.6%)</p> <p>(数学) 減法と除法の混合した整数の計算問題の正答率が高い。(本校98.4% 県80.9%) 五角形の内部に点を取り、5つの三角形に分けて内角の和を求める考え方の誤りを正す問題に課題がある。 (本校27.4% 県34.4%)</p>	<p>【全国】 朝食は100%食べている。 友達の話や意見を最後まで聞く意識は高い、 学校は楽しく、友達と協力する喜びを感じたり、認められる場面があると感じている。 約束やきまりを守るという意識が高い、 いじめはいけななことだという意識が高い、 思いを伝えることに苦手意識を持っている。 夢や目標をもっていない児童がいる。 半数の子が家で学校のことを話さない。 新聞を読んでいる。社会問題に関心がない。 自分の考えを説明したり、文章にしったりすることに苦手意識がある。 国語も算数も大切だと感じているが、取り組むことへの意欲は低い。</p> <p>【県】 自己肯定感が高い生徒が多い。 将来の夢や目標をもっている生徒が多い。 授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが苦手な生徒が多い。 国語、数学が将来役に立つと考える生徒の割合に対して、その教科が好きと答える生徒が少ない。</p>

<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>【成果】 国語は、「漢字の読み、書き」「故事成語」など基礎的な部分については、定着が確認できる。 算数は、四則計算(整数)、異分母分数の計算、円周、直方体の体積などの基礎的な部分についての定着が確認できる。</p> <p>【課題】 国語の基礎問題では、「情景描写の効果を捉える」「物語の登場人物の相互関係を捉える」などが弱い。また活用問題では、「目的に応じて、話し合いの観点を整理する」「質問の意図を捉える」「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめる」「詩の解釈における着眼点の違いを捉える」などが弱い。 算数の基礎問題では、「割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している」「分数の等及び大小についての理解」「作図に用いられている図形の約束や性質を理解している」などが弱い。また活用問題では、「示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて記述する」「繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる」「示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる」「示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述できる」などが弱い。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題を知り、課題をつかむ」「自分で考える」「友達と話し合い、考えを深める」「見つけた考えを確かめる」「まとめる」といった学び(学習過程)を定着させ、基礎基本の充実を図るだけでなく、活用する力の育成も図る。 ・教科毎の特性にふれる魅力ある授業の展開 ・2学期から3学期にかけて4本の公開授業を行い、「めあて」をもたせるための指導方法や自力解決や考えをもたせるための指導方法とその効果について協議、検証をする。またそれを日々の授業改善につなげる ・資料などをもとに理由を書く活動に取り組みさせる。 ・読書活動を充実させる。 ・算数チャレンジで補充学習を充実させる。 ・放課後学習、TT指導など個に応じた指導を充実させ、学力の底上げを図る。
---	---

<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>・記述すること、説明することに対する意識の程度をみるアンケートを採り、児童の意識の変容を確認することで学習意欲と指導効果を検証する。 ・たしかめテストや小テストなどで検証する。 ・授業での児童の変容を発言やノートを確認することで検証する。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの項目毎に「よくできる」の人数の割合を7割以上にする。 ・たしかめテストや小テストの正答率を8割以上にする。 ・授業で8割以上の児童が自分の考えを書いたり、話したりすることができる。(既習事項や式や図)
--	--